



特集

# 「小5 統一合判」<sup>2</sup>

中学入試レポート vol.

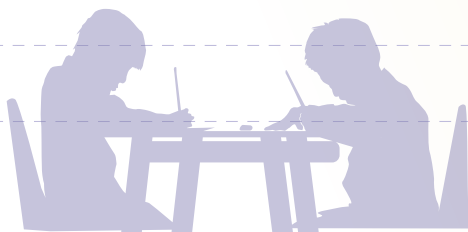
## 私学が育てる人間力！

進学実績や学習指導だけじゃない、  
さまざまなフィールドで活躍する  
私立中高一貫校の生徒たち！

今回で2回目を迎えた小5「統一合判」テスト。大勢の仲間が集い力を競う、こうした会場テストの雰囲気や形式に、はじめて触れた受験生も多かったことでしょう。

2019年2月の入試本番までは、まだ1年半近くありますが、気を抜くことなく、じっくりと「骨太」の学力を養成し、受験勉強が本格化する6年生に向けて、はずみをつけてください。

今回の入試レポートでは、今後の学校選びのためのひとつの視点として、進学実績や学習指導以外の分野での「私立中高一貫校の多様な活躍と成果」を紹介。さまざまな分野で躍動を続ける私立中高一貫生と卒業生たちについてお伝えします。



首都圏模試センター

## 私立中高一貫校が多くの保護者から選ばれている理由とは！？

日本の義務教育では、無試験、無学費で近隣の中学校に通えるにもかかわらず、なぜ多くの小学生親子が、低学年から塾に通い、きびしい中学受験を乗り越え、私立中高一貫校への進学をめざしているのでしょうか。難関大学への進学実績が良いから？環境や設備が充実しているから？それとも教員たちの熱意が素晴らしいからでしょうか。

私立中高一貫校には、創立者が掲げた理想の教育（＝独自の教育理念）のもと、その考えに賛同した家庭の子女が集うことで形成された、独自の風土があります。そこで展開される「自由で、柔軟な教育の展開」こそ、いまなお多くの小学生親子を魅了し続ける理由なのです。そのうえで、各私学が個性的な教育プログラムを工夫し、新たな時代に求められる力を育ててくれるのが、私立中高一貫校の教育なのです。

12歳から18歳の6年間は、人生のうちでも最も多感で大切な時期。人間性の基礎はこの6年間で形成されます。この中高6年間のなかで、学力的にも人間的にも大きく成長するためには、何より「中学1～2年が大事」と言われています。

この中高生活のスタートラインにあたる「基礎期」に、わが子がより良い教育環境で学校生活に馴染み、伸び伸びと自主的に学びながら、友だちや先生と一緒に健やかな学校生活を送ることができれば、その時期に身につけた基礎力や生活習慣が、その後の中学3年～高校1年の「充実期」や高校2年～3年の「発展期」に大きく成長するための確かなベースになるのです。

この大切な時期に高校受験で分断されることなく、一貫した考えのもとで個々の生徒を見守り、育ててくれるのが私立中高一貫校です。じっくり



「第25回全日本高等学校女子サッカー選手権」で初優勝を飾った●十文字のサッカー部。

と自分と向き合い、将来の進路を含めた“生き方”を考えるための時間的ゆとりも生まれます。

まさに、こうした一貫性、持続性を持つ教育環境ならではの利点こそ、多くの小学生の保護者があえてわが子の進路に私立中高一貫校を選ぶ最大の理由なのです。

## 大学進学実績の良さは、各私学がめざす「全人教育」の副産物

私立中高一貫校や中学受験の話題がマスコミ等で取り上げられるときには、先にも述べたような「大学進学実績の良さ」に焦点をあてたものが目立ちます。実際、2017年の「東京大学合格者ランキング」を見ると、36年連続首位の●開成を筆頭に、今年は上位10校が私立中高一貫校でした。

このことは、多くの小学生親子や、世間の人々に広く知られていることであり、この事実が公立学校に対する大きなアドバンテージとなっていることは間違いありません。

しかし、私学が目指しているものは、この点だけではありません。豊かな「学力」と「人格」、そして「個性」と「社会性」を兼ね備えたバランスある人間作りなのです。

これまでも私たちは、私学の中高6年間一貫



## 特集 私学が育てる人間力！

進学実績や学習指導だけじゃない、さまざまなフィールドで活躍する私立中高一貫校の生徒たち！

教育の特質を①独自の理念と教育方針を持つ、②中高の一貫した教育環境と設備がある、③有機的に再編されたカリキュラムがある、④6年間の継続性・連続性を活かす指導がある、⑤入学してきた生徒と保護者、そして教員が一体となり、協力体制がある、⑥大学への進学が見通せる、⑦大学への受験・進学はバランスのとれた人間教育（全人教育）の副産物としての成果である、……と理解してきました。

つまり、個々の生徒が各自の理想や目標につながる進路や職業を選ぶときに、大学や大学院で学んだ経験が、希望を実現するための近道になる。ならばそういう生徒の希望を後押しするために、「大学受験にも立ち向かえる力を中高6年間でじっくり育てよう」というのが、多くの私立中高一貫校の基本姿勢でもあるのです。

いずれにしても、私立中高一貫校の大学進学実績が、大半の公立高校と比べて格段に優れていることは広く知られています。じつはこうした成果につながる中高6年間一貫教育のノウハウを私学に学び、公立学校を選択したい生徒たちにも提供するために設置されたのが、現在までに全国に設置され、近年大きな注目を集めている

公立中高一貫校なのです。

もちろん大学への進学状況（実績や進路指導スタイル）や6年間の学習指導が、学校選択のうえで大きな比重を占めていることは否定しません。しかしこれからわが子の進路を考えていく保護者の皆さんには、それ以外の「幅広い私学の成果」にもぜひ目を向けていただきたいのです。

そうすることによって、「進学実績や学習指導だけではない」私立中高一貫校の（生徒や卒業生たちの）多様な活躍や成果が、大学進学実績以上の魅力をもって感じられることでしょう。

### 継続した中高6年間の時間的余裕が、私立中高一貫校の大きな魅力

「高校受験がない」ことによる時間的余裕と中高の継続性は、私立中高一貫校の大きなメリット。教科の学習だけではなく、「行事や課外活動、好きなことや部活動などに思い切り打ち込める」ことも大きな魅力と言えるでしょう。

人生のうちで最も多感で成長著しい6年間。前述したように人間性の基礎は、この6年間で形づくられる部分がとても大きいのです。

この大切な時期に、高校受験で分断されることなく、一貫した考えのもとで個々の生徒を見守り、育ててくれる私立中高一貫校では、生徒自身がじっくりと自分と向き合い、将来の進路を含めた自分自身の生き方を考えるための気持ちの余裕も生まれます。

そうした時期に自らの意思で好きなことに打ち込むことで、生徒は自尊感情や目的意識、学校生活へのモチベーションを高めることができ、同時にこれらの活動を通じて、他者への理解や協調・協働する力を身につけていくことができます。



「全国高校ゴルフ選手権春季大会女子個人部」で優勝した●共立女子第二の山口すず夏選手。

※本文・コラム文中の、●=男子校、●=女子校、○=共学校

一方の教科学習においても、大学受験に必要な教科（英・数・国・社・理）だけではなく、美術や音楽、技術、体育、家庭科などの教科を通じて、豊かな情操や感性を育てることができます。

とくに私学のなかでも昔から人気の高い伝統校では、主要5教科の学習以上に、こうした側面（美術、音楽、技術、体育、家庭科など）で充実した授業や課外活動、発表の場を多数設けています。

また教科学習の枠組みにとどまらず、平和教育、環境教育、異文化理解教育など、今後の社会でますます必要になってくる知識や理解力を深める機会も、私立中高一貫校の多くが積極的に取り組んでいることです。

こうしたさまざまな側面における幅広い教育や活動を総合的、有機的に結びつけることで、初めて私学の中高6年間一貫教育が形成されているのです。

そして、すでに多くの私立中高一貫校で実践・実現されてきた、これらの「総合的、有機的な」学習や活動、体験の機会を通して育むことのできるものこそ「2020年大学入試改革」に十分に対応できる力であり、中高～大学を卒業して社会に出たときに必要とされる、総合的な学力と人間力（共生・協働・協調できる力とコミュニケーション力）でもあるのです。

また中高の6年間の継続性と時間的なゆとりを活かして、身の回りのもの（自然や社会の出来事）を観察し、先生や仲間とさまざまなテーマで話し合い、自らの頭でじっくりと考え、それを人に伝える力を育むことができるのも「中高6年間一貫教育」の最大の利点と言えるでしょう。

いま教育現場への課題とされる「アクティブラーニング」や「学び合い」の授業、オールイングリッシュによる英語以外の教科の授業（イマージョン教育）なども、まだ頭と感性の柔軟な中学1年生から慣れ親しむことで、子どもたち

にとっては、より吸収・消化しやすいものになることは、言うまでもありません。

### この夏に私立中高一貫校が見せてくれた、 スポーツの成果！

中高一貫校の時間的なゆとりは、部活動や学校行事においても活かされていることは先にも述べましたが、今年も多くの大会やイベントでその成果を見せてくれました。

この冬に行われた「第25回全日本高等学校女子サッカー選手権」では●十文字が悲願の初優勝。21年前に同好会からスタートした女子サッカー一部が、努力を重ねた末の栄冠となりました。

3月に行われた「全国高校ゴルフ選手権春季大会女子個人の部」では●共立女子第二の山口すす夏選手が2位に7打差の9アンダーで優勝。全米女子オープンに日本選手では史上最年少で出場（14歳）した実力を発揮しました。

この夏にハンガリーのブダペストで行われた「世界水泳2017」では、現在も◎淑徳巣鴨に通う池江璃花子選手が個人戦4種目、リレー3種目に出場。惜しくもメダルの獲得はなりませんでした。昨年のリオ五輪に続く活躍で注目を集めました。他にも200M個人メドレーで銀メダルを獲得した萩野公介選手（◎作新学院）、



昨年の「リオ五輪」と今年の「世界水泳2017」で活躍した中村克選手は◎武蔵野の出身。

※本文・コラム文中の、●=男子校、●=女子校、◎=共学校





# 特集

## 私学が育てる人間力！

進学実績や学習指導だけじゃない、さまざまなフィールドで活躍する私立中高一貫校の生徒たち！

200Mバタフライと400M個人メドレーの2種目で銅メダルを獲得した瀬戸大也選手（◎埼玉栄）、100M自由形の日本記録保持者で今大会では50M・100M自由形と4×100Mフリーリレーにエントリーした中村克選手（◎武蔵野）などは私学の卒業生たちです。

国内では、高校生たちによるスポーツの祭典「平成29年度全国高等学校総合体育大会（インターハイ）＝南東北総体2017」が7月28日～8月20日までの日程で開催されました。陸上競技の花形男子100Mでは、◎城西大城西の塚本ジャスティン惇平選手が10秒58の記録で第1位。同校の先輩でこの夏の「世界陸上2017ロンドン」でも注目を集めたサニブラウン・アブデル・ハキーム選手に続く走りを見せてくれました。陸上の男子八種競技では●武相の泉谷駿介選手と原口凜選手が1位、2位を独占。泉谷選手は男子三段跳びでも3位に入りました。

バスケットボール女子では首都圏の私立中高一貫校が大活躍。◎明星学園が準決勝に、◎昭和学院と◎東京成徳大学が準々決勝に駒を進めました。

サッカー男子では◎日大藤沢が準決勝のPK戦を制し初の決勝進出。決勝では1-0の僅差で敗北。準優勝に終わりましたが、最後まで諦めない粘りあるプレーを見せてくれました。



ソフトテニス女子では●文化学園大学杉並（2018年から共学化）の活躍が光りました。個人では林田リコ選手・宮下こころ選手のペアが、昨年に続く2連覇を達成。団体戦でも他校を圧倒し優勝に貢献しました。

他にも◎横浜隼人の笹尾明日香選手・杉本恵選手のペアが卓球女子ダブルスで準優勝するなど、私立中高一貫校の生徒たちが、例年以上の成果を見せてくれています。この中から、3年後の東京オリンピックで注目される選手が現れるかもしれません。

インターハイ同様、毎年多くの感動を与えてくれる夏の風物詩と言えば「99回高校野球選手権大会（2017夏の甲子園）」。この夏も熱い戦いが繰り広げられました。今年は地方大会から私立中高一貫校同士が熱戦を展開。

西東京大会では清宮幸太郎選手を擁する◎早稲田実業と、◎東海大菅生が熱戦を展開。昨年まで3年連続で準優勝だった東海大菅生が4度目にして悲願を達成。見事代表の座を勝ち取りました。

神奈川大会の決勝では●横浜と◎東海大相模が激突。最後は横浜が2年連続17回目の甲子園出場を果たしました。

茨城大会も◎土浦日大と◎霞ヶ浦による私立中高一貫校同士の決勝戦。10-9の大接戦の末、



インターハイ2017のソフトテニス女子では●文化学園大学杉並の林田リコ選手・宮下こころ選手のペアが大活躍。個人と団体の2冠に輝きました。

※本文・コラム文中の、●=男子校、●=女子校、◎=共学校

土浦日大が31年ぶりの栄冠を手に入れています。

中学校のスポーツでも、先にも述べた「高校受験がない」利点を武器に、各種の全国中学校選手権大会や都道府県の予選大会で、私立中高一貫校が活躍を見せています。

もちろん公立中学校でもがんばっているチームはたくさんありますが、高校受験のための準備に時間を取られることなく、中学3年の夏の大会まで、好きなことに打ち込める意義とアドバンテージは、非常に大きいと言えるでしょう。

### プロや実業団の世界でも 卒業生たちが活躍！

プロスポーツや実業団の世界でも、私立中高一貫校の卒業生たちが活躍しています。

稀勢の里の横綱昇進で盛り上がりを見せている大相撲界ですが、多くの力士を輩出しているのが◎埼玉栄です。大関の豪栄道を筆頭に、北勝富士、大栄翔、妙義龍、そして7月の名古屋場所では横綱白鵬との一戦で場内を沸かせた貴

景勝など、幕内力士を多数輩出しています。

他にも、女子バレーボール選手では◎八王子実践や◎共栄学園、ラグビーでは◎国学院久我山、サッカーの◎帝京・◎修徳・◎成立学園、柔道では◎国士館など…、これらはほんの一部に過ぎませんが、私学出身の先輩たちが各方面で活躍する例は複数あります。

こうした私学の「成果」を、お子様に示すことも、中学受験に対する目標や励みにきつとつながるはずです。

### 文化部も負けていない！ 私立中高一貫校の多様な成果

私立中高一貫校の部活動の活躍は、運動部だけではありません。体格や運動能力で差がつくことが少なく、中学生と高校生が合同で活動する例が多い文化部のほうが、むしろ全国的な活躍が目立つ、という見方もできます。

「文化部のインターハイ」と呼ばれる「全国高等学校総合文化祭（2017みやぎ総文）」はこの夏で41回目の開催。文化部の生徒たちにとっては日頃の練習や研究の成果を発表する絶好の機会となっています。

後半戦の注目は「囲碁・将棋部門」。「囲碁部門」男子団体では3名中2名が◎桐蔭学園だった神奈川県が見事優勝を果たしました。

藤井聡太四段の出現で大注目の「将棋部門」では、男子個人で●横浜の銭本裕生選手が優勝。女子個人では◎広尾学園の宮澤紗希選手が準優勝するなど、首都圏私立中高一貫校の活躍が目立ちました。

同じくこの夏に行われた合唱の「第84回NHK全国学校音楽コンクール東京都コンクール本選」の中学の部では、●豊島岡女子学園と●大妻中野が金賞に輝き、●三輪田学園と●頌栄女



佐藤改め、貴景勝が母校◎埼玉栄を訪問。化粧回しを進呈されました。



# 特集

## 私学が育てる人間力！

進学実績や学習指導だけじゃない、さまざまなフィールドで活躍する私立中高一貫校の生徒たち！

子学院が銀賞、◎国立音大附が銅賞を受賞しました。

伝統文化としての書の本質を磨きながら新しい書の魅力を探求する「第10回書道パフォーマンス甲子園」（全国高等学校書道パフォーマンス選手権大会）では●佼成学園女子と◎本庄東、◎本庄第一が本戦出場権を獲得。本庄第一が紫舟賞に輝くなど、高校生らしい活気あふれるパフォーマンスをみせてくれました。

8月上旬に行われた「第22回全国・中学・高校ディベート選手権」（ディベート甲子園）の中学の部では◎渋谷教育幕張が見事優勝。高校の部でも第3位になるなど、総合力の高さを見せてくれました。

他にも、吹奏楽、管弦楽、マーチングバンド、美術、漫画、生物、化学、物理、放送、ラジオ、鉄道研究、コンピュータなど、さまざまな文化部が全国レベルの活躍を見せています。

このように運動部・文化部に関わらず、誰もが自分の好きなことに打ち込むことができ、しかも

高いレベルでの活躍や成果を出すことができることも、私立中高一貫校の大きな特色なのです。

こうした継続的な6年間の部活動を行うことのできる環境と熱心な顧問の先生（専任教員なら転勤することはない）や指導者（OBのつながりや支援力も強い）の存在。それが長くても10年毎に転勤を余儀なくされる公立中学・高校と私立中高一貫校の大きな違いと言えるでしょう。

### 学校の枠や国境を超えた大会や催しでも、私立中高一貫校の生徒が大活躍！

スポーツの中体連、高体連、文化部における各種団体が主催する中高の大会や発表会だけではなく、学校の枠や国境を超えた大会や発表会、コンクールなどでも、私立中高一貫校の生徒が多彩な活躍を見せています。

世界の高校生が国連会議を模して国際問題を討議する「模擬国連」にチャレンジする私立中高一貫校も年々増加しています。5月に行われた「第11回高校模擬国連国際大会」では◎渋谷教育幕張と◎渋谷教育渋谷が優秀賞を受賞。海外大学への進学実績も高い両校の取り組みが反映された結果となりました。

またこの夏の開かれた「第58回国際数学オリンピック・ブラジル大会」では●開成の代表が金メダル、そして●筑波大駒場の2人がそれぞれ銀メダルを獲得しています。

国際的に活躍できるグローバル・リーダーの育成をめざす「スーパーグローバルハイスクール（SGH）」として文部科学省から指定された全国の高校生たちによる課題研究の発表会「SGH甲子園2017」も3月に実施されています。そのプレゼンテーション部門（英語発表の部）では●富士見丘が優秀賞を受賞。同時に、優秀賞3校の中から1校が選出される審査員特別賞も受賞し、7



全国屈指の紙の産地である愛媛県四国中央市で開催される「書道パフォーマンス」。華麗な演舞と書道の融合は必見です。

※本文・コラム文中の、●=男子校、●=女子校、◎=共学校



さまざまな分野で活躍する私立中高一貫校の卒業生たちをご紹介！

【政治】

安倍 晋三（現内閣総理大臣）：◎成蹊  
 蓮舫（参議院議員）：◎青山学院  
 小泉 進次郎（衆議院議員）：◎関東学院六浦

【文芸】

赤川 次郎（小説家）：●桐朋  
 倉本 聰（脚本家）：●麻布  
 角田 光代（小説家）：●捜真女学校  
 川上 弘美（小説家）：●雙葉  
 山藤 章二（漫画家）：◎立正大立正

【音楽】

桑田 佳祐（ミュージシャン）：●鎌倉学園  
 松任谷 由実（シンガーソングライター）：●立教女学院  
 小田 和正（シンガーソングライター）：●聖光学院  
 一青 窈（歌手）：◎森村学園  
 イルカ（フォークシンガー）：◎新渡戸文化  
 千住 真理子（ヴァイオリニスト）：◎慶應中等部  
 阿木 燿子（作詞家）：●捜真女学校

【スポーツ】

加藤 凌平（体操）：◎埼玉栄  
 三宅 宏実（重量挙げ）：◎埼玉栄  
 村主 章枝（アイススケート）：●清泉女学院  
 阿部 慎之助（野球）：◎安田学園  
 古賀 稔彦（柔道）：●世田谷学園

【報道】

桑子 真帆（NHKアナウンサー）：●鷗友女子  
 高島 彩（TBSアナウンサー）：◎成蹊  
 八木 亜希子（TBSアナウンサー）：●横浜雙葉

【芸能】

石坂 浩二（俳優）：●慶應普通部  
 中井 貴一（俳優）：◎成蹊  
 織田 裕二（俳優）：◎桐蔭学園  
 竹中 直人（俳優）：◎関東学院六浦  
 香川 照之（俳優）：◎暁星  
 戸田 恵子（女優・声優）：●駒沢女子  
 黒柳 徹子（女優・タレント）：●香蘭女学校  
 桃井 かおり（女優）：●女子美大付  
 松嶋 菜々子（女優）：●相模女子大  
 武井 壮（タレント）：◎修徳  
 中村 アン（モデル）：◎目白研心

【その他】

隈 研吾（建築家）：●栄光学園  
 秋山 豊寛（宇宙飛行士）：●攻玉社  
 金井 宣茂（宇宙飛行士）：◎東邦大東邦  
 養老 孟司（解剖学者）：●栄光学園  
 渡辺 明（将棋棋士・永世竜王）：●聖学院  
 秋山 仁（数学者）：●駒場東邦

※一部高入生を含む

月に開催された国際的な研究発表会「Global Link Singapore 2017」にも出場しました。

他にも文部科学省と民間企業が協力して、意欲と能力ある若者たちの留学を支援する「トビタテ！留学JAPAN」など、近年は学外プログラムへの参加を積極的に推奨する私立中高一貫校が増えています。

ここまで紹介してきた活動は、ほんの一例であり、他にも私立中高一貫校の活躍は多岐に渡ります。しかし、本来の私立中高一貫校の教育の目的は、中高6年間のゆとりを最大限に活かすことで得られる高い学力と、その過程で培われる豊富な人間力の育成にあり、今回ご紹介した“成果”はあくまで「プラスアルファ」（副産物）

にすぎません。

受験勉強が本格化する小5の今だからこそ、私立中高一貫校に我が子を通わせる意義を考え、進学実績や学習指導以外の魅力にも目を向けてみてください。



「SGH甲子園2017」プレゼンテーションの部で優秀賞に輝いた●富士見丘。

※本文・コラム文中の、●=男子校、●=女子校、◎=共学校